

メソミル粉粒剤 ランネート微粒剤 F	取扱メーカー： 三井アグロ、丸和 原体メーカー： デュポン
成分： メソミル〔カーバメート系 PRTR・1種〕……………1.5%	性状： 類白色微粒及び粗粉63～212μm 毒性： 劇物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 殺虫作用は接触毒並びに食毒で、ガス作用はない。
- 微粒という剤型にもかかわらずトップドレッシングで通常の散布剤と同等か、それ以上の速効性を示す。
- 広範囲の野菜害虫に有効で、咀嚼性害虫及び吸汁性害虫も防除できる。
- ドリフトが少なく周囲への飛散もほとんどない。害虫防除後速やかに分解する。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- まきムラを防ぐためあらかじめ機械の調整及び歩行速度などを調整確認する。
- 地上1.5mの位置における風速が3m/秒をこえるときは行わない。
- 地上散布では散粒用多口ホース噴頭付き動力散粒機で散布する。
- 小面積の野菜畑等で使用する場合はランネート微粒剤F専用の散布筒で散布し、手まきは絶対にしない。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 適用作物（はくさい）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意する。
- 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。

●作業中に、粉末等を吸い込んだ場合は、薬剤にさらされない場所に移し、安静にする。薬剤を多量に浴びたときは、衣服を脱ぎ、皮膚・眼をよく洗う。また、身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。

●本剤による中毒に対しては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。呼吸が困難な場合は気道を確保する。口移し人工呼吸は行わない。

●眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。

●散布する時は、散布筒の先を腰より高くしない。

●散布に当たっては危害防止のため、散布対象作物が人の胸の高さ以上の場合は使用をさけ、下に向けて散布する。

●ハウス内など遮閉された場所での使用はさける。

●高温多湿時の長時間作業及び疲労時の散布はさける。

●犬、猫、鳥などペット類、家畜が食べないようにする。

●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

●共通注意事項7. ミツバチに対する注意事項を参照。

●甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。



【適用と使用法】

作物名	適用害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	メソミルを含む農 薬の総使用回数
キャベツ	アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	3～5 kg	14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	コナガ タマナギンウワバ アブラムシ類	4～6 kg				
だいこん	アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	3～5 kg	21 日前まで	2 回以内		2 回以内 (は種時の 土壌混和は 1 回以内)
	コナガ タマナギンウワバ アブラムシ類	4～6 kg				
かんしょ	ハスモンヨトウ エビガラスズメ イモコガ ナカジロシタバ	3～5 kg	7 日前まで	5 回以内		5 回以内
	コガネムシ類幼虫	6 kg				
ばれいしょ	ヨトウムシ	3～5 kg				
	アブラムシ類	4～6 kg				
はくさい	ネキリムシ類	6 kg	14 日前まで	2 回以内	地表面散布	2 回以内 (は種時の 土壌混和は 1 回以内)
だいず	ハスモンヨトウ シロイチモジマダラメイガ カメムシ類	4～5 kg		4 回以内	散布	4 回以内
にんじん (北海道に 限る)	キタネコブセンチュウ	20～30 kg	は種前	1 回	全面土壌 混和	2 回以内 (は種前の 土壌混和は 1 回以内)